

生涯学習・社会教育関係職員研修講座【上北地区研修】

令和7年5月21日(水)13:00~16:15 おいらせ町みなくる館 受講者60名

1 内容

【テーマ】「まちづくりのファシリテーション技術」

【講師】弘前大学 大学院地域社会研究科

准教授 土井 よしひろ 氏



【経歴】

学生時代からワークショップ手法を用いたまちづくりに関する調査・研究に携わり、住民主体の地域活性化プロジェクトの企画・運営にも取り組む。

世田谷区の財団で8年間にわたり市民活動を支援する仕事を経て、2014年から現職。

現在は青森県内各地で地域づくり支援に努めるとともに、地域づくりの人材育成を目指した研修の企画・運営も担当している。

【講義要旨】

- 現代社会では人口減少や超少子高齢化に伴い、地域コミュニティの維持が課題となっています。このため、多様な主体が協働してまちづくりを進めることが重要であり、社会教育の役割としてファシリテーション技術の習得が求められています。
- ワークショップとは、身体を使って作業・体験するもの、学び・発見を伴うものなど多様ですが、何かを「創造」したり「検討・決定」したりする“場”です。
- ファシリテーターは、グループの力を引き出し、自発的行動を促進します。集団作業の生産性や創造性を向上させ、チームやコミュニティを形成します。最終目的は、彼らが自ら動ける状態を作ることです。
- 今後のまちづくりでは、地域の交流の場を設け、対話を通じて課題解決のアイデアや担い手を発掘することが求められます。ファシリテーターは、プロジェクトチームを形成し、自主的な活動を促進する役割を担います。

2 受講者の感想

- ・ワークショップ、ファシリテーターの技術について、理論からしっかり学ぶことができました。ワークショップの研修が充実しました。
- ・まちづくりについて、似た考えをもった方々と話し合う機会がもてたこと、様々な視点でまちづくりを考えたことがとても勉強になりました。
- ・住民を含むまちづくりの必要性について理解することができました。これまでは、同業者とのワークショップへ参加したことはありましたが、様々な立場の人が参加するワークショップは初めてだったので、意見を交換することができて有意義でした。